

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101040		
法人名	岡山医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム福浜		
所在地	岡山市南区福富中二丁目8-10		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 22 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内に医療機関があり、連携しやすい環境にある。情報共有、連携強化のため毎月病院、訪問看護、薬局との連携カンファレンスも行っている。主治医が法人内医療機関という安心感からの入居申し込みも多い。同法人通所介護が隣接しており、行事等に参加し、入居前に利用されていた方は、顔見知りの方との交流も図っている。また生協組織でもあり、地域組合員のボランティアの協力や意見も受け入れながら利用者のニーズに応えられるよう支援している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営理念の一つの「一日の時間を大切にしよう」を心に描き、職員の一人一人が利用者と接し、語りかけながら、穏やかな空間を作ろうとしている姿が印象深い。また、決して、テレビ放映で紛らわせるのではなく、人対人の生活を重視しているから殆どの利用者が共用空間に集まる姿が垣間見れた。「グループホーム福浜」という地域の名前に恥じなく、すこしでも地域に愛される施設を目指そうとしている職員さんがここにいる。施設の玄関を入ると不快感なく、気持ちよく顔を覗かせる事が出来た。感性良く、見聞きだけではなく身体感覚(触覚・味覚・嗅覚)を大事にしている職員さんのさりげない他人から見て気持ちの良い工夫が多々窺われる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年毎に事業所目標を理念に基づき作成している。それを基に個々で目標を作成している。面談時に進捗状況の確認も実施している。	理念を各事務所内に掲示し、毎月のカンファレンスで共有している。理念はISO9001に則り実践していて、社員一人一人の振り返りシートに目標を書いて、落とし込み実践している。最低年2回(中間・期末)のホーム長とユニット長、職員との面談時に振り返っている。	職員だけでなく利用者や家族でも分かる様に大きく色分けをして掲げて欲しい 経営理念を、もっと活用しましょう
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、情報収集できるようにしている。隣接しているデイサービスの行事への参加やグループホームでの行事の参加を通じ、地域のボランティアと交流している。中学生の職場体験の受け入れもしている。	地域の公民館祭りの作品展示や受付の手伝いをしている。班会にて、介護予防をテーマにした活動を年間を通じて実施している。地域の溝掃除の参加やボランティアのお出かけの同行や歌唱・舞踊・オカリナなどの楽器演奏が頻繁に開催している。ボランティアで通いなれた園児が、小学校に上がって帰宅途中に遊びに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じ、地域のボランティアと交流し、グループホーム内での出来事の報告の場を設け、意見交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職場会議で意見を共有し、サービス向上に努めている。	参加者は7~8名。今まで来られなかった方に、積極的に声をかけ、新しい方にも門戸を広げながら、ガラス張りの経営を目指そうとしている。他の有識者にも参加要請をしていて、会議で出た意見は職場会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	情報収集を地域に拡販して様々な取り組みにチャレンジしてほしい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている方が複数おられ、福祉事務所との協力関係がある。	ホーム長が窓口となり、いつでも報告・連絡・相談できる関係を築いている。生活保護受給者の方もおられるので、福祉事務所の協力関係も深い。市主催の研修には積極的に参加している。なかでも社会福祉協議会の方が、利用者の金銭管理を気にされ、多忙の中でも頻繁に来られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を開催し、職場会議で共有し、学習も実施している。	3ヶ月に1回、拘束廃止委員会を実施し、職場会議の中で職員に周知している。特にスピーチロックを重視し、言葉かけを職員同士で注意しながら、利用者には不快感を与えないよう注意を施し、常に当たり前に行えるように学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防委員会を開催し、日常的に注意している。職場での学習会も実施している。直近では、スピーチロックについて再度学習を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について学べていないが、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より説明を重ね、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口を管理者、介護事業部とし、ご意見箱の設置をしている。日常的にも電話や面会時に意見を伺っている。	苦情は直接言っておさる関係が出来ている。年1回の家族満足度調査から、電話や面会時に報告をしている。また、面会時など積極的に声をかけ、話せる時間を設けている。面会時に出た意見や要望は職場会議で話し合い、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議、面談時、日常的にも聞き、運営に反映させている。	年2回の個人面談を実施している。各職員の希望も出来るだけ反映できる様に、また介護がやりやすい様に取り組んでいる。いつでもどこでも代表者や管理者に相談出来、チームワークプレーで乗り越える姿勢が伺われる。傍(はた=周りの人)を楽にする「働く」気持ち、勤務調整などにみえ、譲り合う心となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働組合もあり、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの実際と力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。今年度は、認知症実践者研修1名、実務者研修1名、実務者教員講習1名受講。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に学習を行うなど交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に困り事や不安を伺い、安心して生活できるよう配慮したり、入居当初は特に頻繁に声掛けもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や要望等、入居前の面接時から伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の必要としている支援を見極め、計画作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りや共に行う生活リハビリを通じ、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの行事等で地域のボランティアの方にお世話になっており、それぞれの馴染みの方の訪問や電話もある。	ボランティアさんが頻繁に来られるので、いつの間にか馴染み以上の関係になっている。元職場の人や古い友人と年賀状や手紙をやり取り、元の家近所の友達や元指導者の弟子が面会に来られる。家族と一緒に馴染みの美容院に行く方もある。なかでも、家族からの「どんな状態ですか？」という心配の電話は有り難い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係を把握した上で、行事や活動を通じ関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退居後の支援はないが、必要あれば支援できるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向の把握に努めている。	「寿司・麺類・肉が食べたい」という思いが強いので、職員が出来る限り利用者と平等になるよう気遣いながら、同行して希望を叶えている。また、家族でよく外出する方もいるので、外出頻度のバランス調整もしながら対処している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や家族、担当ケアマネージャーに経過把握の協力をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に担当職員を付け、モニタリングやアセスメントを実施し、全体で情報収集共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心とし、情報収集後やケアカンファレンスで話し合い、計画作成している。	家族の意見をもとに、担当職員が要望をとりまとめ、様々な情報収集を活かして、ケアカンファレンスで職員と共有し合っている。モニタリングは、特に変化がなければ半年に一度行うが、状態に応じて期間を詰めて密に関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング結果を共有し、カンファレンスで情報共有後に計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況に対し、柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接しているデイサービスや地域のボランティアの方々の協力のもと、施設内で孤立しないよう楽しむ事を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切にし、受診が継続できるように支援している。	かかりつけ医は家族に選んで頂けるが、殆どの方が、協力医に転医している。協力医が月2回、訪問看護が週1回来訪しており、24時間365日適切な医療が提供されている。医療に関しては、頼るべき点が多いので、何でも話せる関係は築かれ、永い御縁で関係が深まっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には報告や相談を行い、月に1回連 携カンファレンスを開いてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、相談室との情報交換を行っており、必要時にはカンファレンスを開いてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に出来る事を十分に説明し、関係者とも話し合いながら支援に取り組んでいる。	基本的には看取りはしていて、昨年は一人の看取りをした。出来ない事は家族にははっきりと伝え、その方の安心出来る専門機関を勧める等、便宜を図っている。入居時に看取りの指針を説明し同意書を作成している。主治医の看取りの診断が下りた時は、家族と主治医とホーム長で話し合い、いつでも職員全員で対応できるように心構えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業部学習会や職場学習会を利用し、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施している。職員やボランティアが近所に住んでいるので心強い。	年2回(春・秋)、昼夜想定の中、利用者や地域のボランティアが参加し実施している。年2回の内、1回は隣接施設と合同で実施している。消防署の立ち合いもあり指導を受けている。また、日々、避難場所も気にしながら外出に臨んでいる。2階に米・水・ガスボンベ・乾パン・チルド食品を4～5日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用して頂いている事を常に考え、失礼のない言葉かけや対応を心掛けている。	呼称は、「○○さん」としている。嫌な顔をされた時にはさりげなく言葉を変えて、二度と使わない様にしたり、行動をしてただけない場合は、時間を置いたりすることで、その人がその人らしくプライバシーを守りながら暮らせるように、利用者を尊重しながら支援配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で聞き取り、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう可能な方と一緒に準備、片付けをしている。	「一ロー一口ごと、美味しい！」と語られている利用者が居て、その発声に釣られて他の利用者の食もどンドン進み、殆どの方が完食していた。利用者の盛り付けも手伝って頂き、食事支援がしやすい。近所の方の野菜の差し入れを味噌汁に彩っている事が、地域に愛されている親しみを感じた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の変更や水分摂取量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	トイレに向かうことが難しい方には、運動がてらに歩いているときに、「ちょっと寄り行かない？」などの言葉がけで、トイレへ誘導している。出来る事は出来るだけ、ご本人優位に心がけ、失敗された時も『大丈夫よ』『着替えるよ』『安心してね』とホッとさせる言葉がけで、次回に繋げる配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴していただけるようご希望を聞きながら、体調や気分により支援している。	近所の方が差し入れしてくれる柚子を、毎年、お風呂に使い、入浴者に季節感を味わって頂いている。お風呂の楽しみは、一日おきで、平等に利用者に入浴利用して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。気になる事があれば薬剤師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努めている。	住宅街の割に近隣に公園がなく、ベンチなど腰掛ける場所が少ないから、外出には気を使っている。日常の外出を習慣化するために、天気の良い日には、ソファを外に出しての日向ぼっこ、季節に溶け込めるように花の水やりや夏野菜の収穫等を、散歩をする第一歩として呼びかけて、少しでも外出支援につながる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談の上、希望や力に応じてお金を所持したり、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話の取り次ぎや手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れ、過ごしやすいよう工夫している。	経営理念の一つである、一日の時間を大切にしようとして職員が一人一人、利用者と接し、語りかけながら、穏やかな空間を作ろうとしている。決して、共用空間でテレビをつけっぱなしする行動など利用者を放任するのではなく、人対人の生活を重視している空間を目指し、対話中心を心がけている。殆ど方が共用空間で集って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれたり、利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものを活かし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人が好きな人の写真や物に囲まれて、昔に戻った気持ちになって、今、その場に居るが如く浸っている居室がうかがわれる。居室は、ナチュラルな色使いと素材で利用者を見守っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101040		
法人名	岡山医療生活協同組合		
事業所名	グループホーム福浜		
所在地	岡山市南区福富中二丁目8-10		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101040-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 22 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内に医療機関があり、連携しやすい環境にある。情報共有、連携強化のため毎月病院、訪問看護、薬局との連携カンファレンスも行っている。主治医が法人内医療機関という安心感からの入居申し込みも多い。同法人通所介護が隣接しており、行事等に参加し、入居前に利用されていた方は、顔見知りの方との交流も図っている。また生協組織でもあり、地域組合員のボランティアの協力や意見も受け入れながら利用者のニーズに応えられるよう支援している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営理念の一つの「一日の時間を大切にしよう」を心に描き、職員の一人一人が利用者と接し、語りかけながら、穏やかな空間を作ろうとしている姿が印象深い。また、決して、テレビ放映で紛らわせるのではなく、人対人の生活を重視しているから殆どの利用者が共用空間に集まる姿が垣間見れた。「グループホーム福浜」という地域の名前に恥じなく、すこしでも地域に愛される施設を目指そうとしている職員さんがここにいる。施設の玄関を入ると不快感なく、気持ちよく顔を覗かせる事が出来た。感性良く、見聞きだけではなく身体感覚(触覚・味覚・嗅覚)を大事にしている職員さんのさりげない他人から見て気持ちの良い工夫が多々窺われる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1年毎に事業所目標を理念に基づき作成している。それを基に個々で目標を作成している。面談時に進捗状況の確認も実施している。	理念を各事務所内に掲示し、毎月のカンファレンスで共有している。理念はISO9001に則り実践していて、社員一人一人の振り返りシートに目標を書いて、落とし込み実践している。最低年2回(中間・期末)のホーム長とユニット長、職員との面談時に振り返っている。	職員だけでなく利用者や家族でも分かる様に大きく色分けをして掲げて欲しい 経営理念を、もっと活用しましょう
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、情報収集できるようにしている。隣接しているデイサービスの行事への参加やグループホームでの行事の参加を通じ、地域のボランティアと交流している。中学生の職場体験の受け入れもしている。	地域の公民館祭りの作品展示や受付の手伝いをしている。母体の生協組合員との班会にて、介護予防をテーマにした活動を年間を通じて実施している。地域の溝掃除の参加やボランティアのお出かけの同行や歌唱や舞踊やオカリナなどの楽器演奏が頻繁に開催している。ボランティアで通いなられた園児が、小学校に上がっても、帰宅途中に遊びに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じ、地域のボランティアと交流し、グループホーム内での出来事の報告の場を設け、意見交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職場会議で意見を共有し、サービス向上に努めている。	参加者は7~8名。今まで来られなかった方に、積極的に声をかけ、新しい方にも門戸を広げながら、ガラス張りの経営を目指そうとしている。他の有識者にも参加要請をしていて、会議で出た意見は職場会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	情報収集を地域に拡販して様々な取り組みにチャレンジしてほしい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている方が複数おられ、福祉事務所との協力関係がある。	ホーム長が窓口となり、いつでも報告・連絡・相談できる関係を築いている。生活保護受給者の方もおられるので、福祉事務所の協力関係も深い。市主催の研修には積極的に参加している。なかでも社会福祉協議会の方が、利用者の金銭管理を気にされ、多忙の中でも頻繁に来られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を開催し、職場会議で共有し、学習も実施している。	3ヶ月に1回、拘束廃止委員会を実施し、職場会議の中で職員に周知している。特にスピーチロックを重視し、言葉かけを職員同士で注意しながら、利用者には不快感を与えないよう注意を施し、常に当たり前に行えるように学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防委員会を開催し、日常的に注意している。職場での学習会も実施している。直近では、スピーチロックについて再度学習を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について学べていないが、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より説明を重ね、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口を管理者、介護事業部とし、ご意見箱の設置をしている。日常的にも電話や面会時に意見を伺っている。	苦情は直接、口頭にて言って下さる関係が出来る。年1回の家族満足度調査から、家族に対して電話や面会時に報告をしている。また、面会時など積極的に声をかけ、話せる時間を設けている。面会時に出た意見や要望は職場会議で話し合い、法人へ伝え、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議、面談時、日常的にも聞き、運営に反映させている。	職員の方から積極的に意見がでて、年2回の個人面談も実施している。各職員の希望も出来るだけ反映できる様に、また介護がやりやすい様に取り組んでいる。いつでもどこでも代表者や管理者に相談出来、チームワークプレーで乗り越えて行っていく姿勢がうかがわれる。傍(はた=周りの人)を楽にする「働く」気持ち、勤務調整などにみえる譲り合う心となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働組合もあり、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアの実際と力量を把握し、研修を受ける機会を確保している。今年度は、認知症実践者研修1名、実務者研修1名、実務者教員講習1名受講。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に学習を行うなど交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に困り事や不安を伺い、安心して生活できるよう配慮したり、入居当初は特に頻繁に声掛けもしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困り事や要望等、入居前の面接時から伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の必要としている支援を見極め、計画作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りや共に行う生活リハビリを通じ、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの行事等で地域のボランティアの方にお世話になっており、それぞれの馴染みの方の訪問や電話もある。	ボランティアさんが頻繁に来られるので、それぞれがいつの間にか馴染み以上の関係になっている。元職場の人や古い友人と年賀状や手紙のやり取りや、元の家近所の友達や元指導者の方の弟子が面会に来られる。家族と一緒に馴染みの美容院に行く方もある。なかでも、家族からの「どんな状態ですか？」という心配の電話も有り難い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係を把握した上で、行事や活動を通じ関わり合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退居後の支援はないが、必要あれば支援できるよう努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向の把握に努めている。	「寿司や麺類や肉を食べたい」という思いが強いので、職員が出来る限り利用者が平等になるように気遣いながら、同行して希望を叶えているときもある。 また、家族でよく外出する方もいるので、外出頻度のバランス調整もしながら対処している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や家族、担当ケアマネジャーに経過把握の協力をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者に担当職員を付け、モニタリングやアセスメントを実施し、全体で情報収集し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心とし、情報収集後やケアカンファレンスで話し合い、計画作成している。	家族の意見をもとに、担当職員が要望をとりまとめ、様々な情報収集を活かして、ケアカンファレンスで職員と共有し合っている。モニタリングは、特に変化がなければ半年に一度行うが、状態に応じて期間を詰めて密に関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング結果を共有し、カンファレンスで情報共有後に計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況に対し、柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接しているデイサービスや地域のボランティアの方々の協力のもと、施設内で孤立しないよう楽しむ事を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、受診が継続できるよう支援している。	かかりつけ医は家族に選んで頂けるが、殆どの方が、施設に来られる協力医に転医していただける。協力医が月2回、訪問看護が週1回来訪しており、24時間365日適切な医療が提供されている。医療に関しては、頼るべき点が多いので、何でも話せる関係は築かれ、永い御縁で関係が深まっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には報告や相談を行い、月に1回連 携カンファレンスを開いてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、相談室との情報交換を行っており、必要時にはカンファレンスを開いてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に出来る事を十分に説明し、関係者とも話し合いながら支援に取り組んでいる。	基本的には看取りはしている。その時の症状によって、出来ない事は家族にはっきりと伝え、その方の安心出来る専門機関を勧める等、便宜を図っている。昨年は一人の看取りをした。入居時に看取りの指針を説明し同意書を作成している。主治医から看取りの診断が下りた時は、家族と主治医とホーム長で話し合い、いつでも職員全員で対応できるように心構えた。年1回勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業部学習会や職場学習会を利用し、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を実施している。職員やボランティアが近所に住んでいるので心強い。	年2回(春・秋)、昼夜想定の中、利用者や地域のボランティアが参加し見守りを受けて実施している。年2回の開催の内、1回は隣接施設と合同で実施している。年1回は、消防署の立ち合いもあり、指導を受けている。また、日々、避難場所も気にしながら外出に臨んでいる。2階に備蓄し、4-5日分を設置。米・水・ガスボンベ・乾パン・チルド食品等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用して頂いている事を常に考え、失礼のない言葉掛けや対応を心掛けている。	呼称は、「○○さん」としている。嫌な顔をされた時にはさりげなく言葉を変えて、二度と使わない様にしたり、行動をしていただけない場合は、時間を置いたりすることで、その人がその人らしくプライバシーを守りながら暮らせるように、利用者を尊重しながら支援配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で聞き取り、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、希望にそった支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう可能な方と一緒に準備、片付けをしている。	「一口一口と、美味しい・・・！」と語られている利用者が居て、その発声に釣られて他の利用者の食もどんどん進んで、殆どの方が完食されている。利用者の盛り付けも手伝って頂き、食事時支援がしやすい。近所の方の野菜の差し入れを味噌汁に彩っている事が、地域に愛されている親しみがより増している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の変更や水分摂取量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	トイレに向かうことが難しい方には、運動がてらに歩いているときに、「ちょっと寄って行かない？」というような言葉がけで、トイレへ誘導している。出来る事は出来るだけ、ご本人優位に心がけ、失敗された時も『大丈夫よ』『着替えるよ』『安心してね』とホッとすることを言葉かけ、次回のときに繋げる配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴していただけるようご希望を聞きながら、体調や気分により支援している。	近所の方が差し入れしてくれる柚子を、毎年、お風呂に使い、入浴者に季節感を味わって頂いている。お風呂の楽しみは、一日おきで、平等に利用者に入浴利用して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。気になる事があれば薬剤師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努めている。	住宅街の割に近隣に公園がなく、ベンチなど腰掛ける場所が少ないから、外出には気を使っている。日常の外出を習慣化するために、天気の良い日には、ソファを外に出しての日向ぼっこ、季節に溶け込めるように花の水やりや夏野菜の収穫等を、散歩をする第一歩として呼びかけて、少しでも外出支援につながる様にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談の上、希望や力に応じてお金を所持したり、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の電話の取り次ぎや手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快にならないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れ、過ごしやすいよう工夫している。	経営理念の一つである、一日の時間を大切にしようとして職員が一人一人、利用者とは接し、語りかけながら、穏やかな空間を作ろうとしている。決して、共用空間でテレビをつけっぱなしにする行動など利用者を放任するのではなく、人対人の生活を重視している空間を目指し、対話中心を心がけている。殆どの方が共用空間で集って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で独りになれたり、利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものを活かし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人が好きな人の写真や物に囲まれて、昔に戻った気持ちになって、今、その場に居るが如く浸っている居室がうかがわれる。居室は、ナチュラルな色使いと素材で利用者を見守っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		